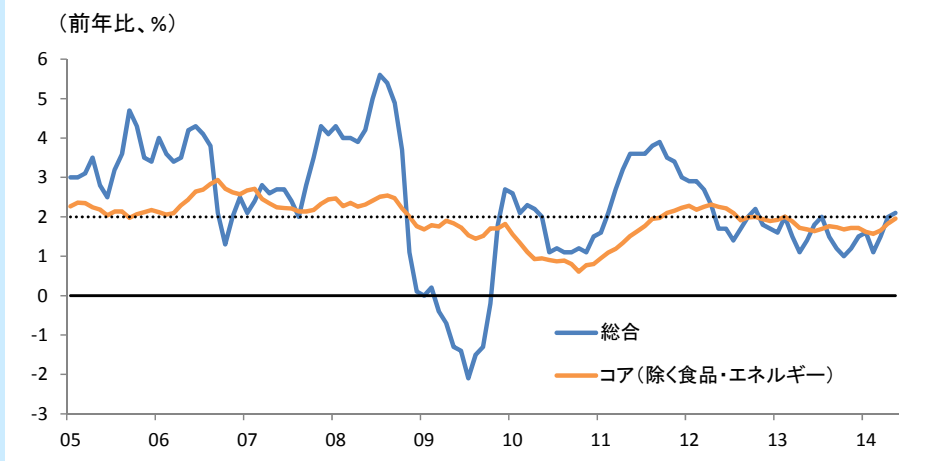


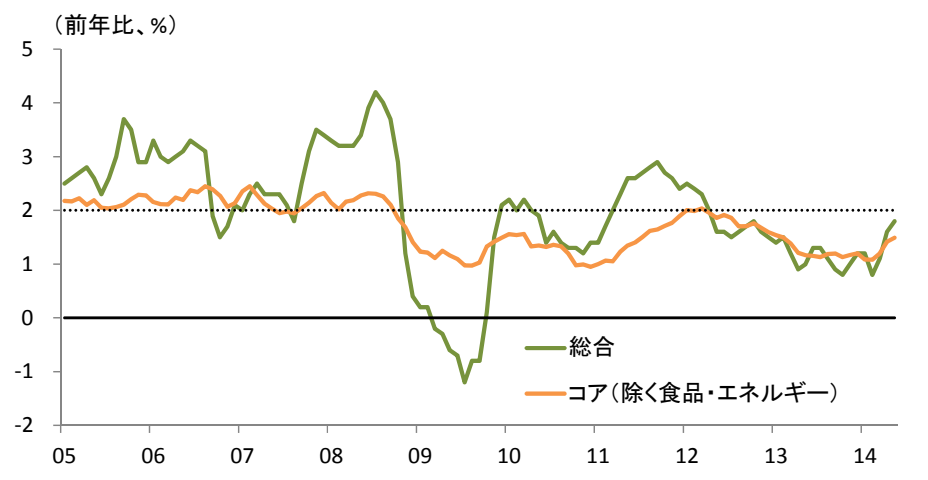
# 米国：物価(2014年5月)

## MRI Daily Economic Points July 1, 2014

### 図表1 消費者物価指数 前年比



### 図表2 個人消費支出物価指数 前年比



資料:労働省、商務省

## 評価ポイント

### 今回の結果

- 5月の米消費者物価総合指数(CPI)は、前月比+0.4%上昇と前月(同+0.3%)から伸びを高めた(6/17公表)。前年比も+2.1%と前月(同+2.0%)から伸び率が上昇。変動の大きい食品・エネルギーを除いたコアベースでも、前月比+0.3%、前年比+2.0%と、ともに伸び率を高めた。
- 5月の個人消費支出物価指数(PCE)は、前月比+0.2%と前月から変わらず(6/26公表)。前年比は+1.8%と12年10月以来の高い伸びとなった。コアベースでは、前月比は+0.2%と変わらず、前年比は+1.5%と3ヶ月連続で伸びを高めた。
- 6月のミシガン大学のサーベイ・リサーチセンターによる5年先のインフレ期待値(確報値)は、前年比+2.9%と前月(同+2.8%)から伸び率が小幅上昇した(6/27公表)。

### 基調判断と今後の流れ

- 消費者物価はエネルギーや食料品価格の上昇により総合指数の伸び率が押し上げられているほか、医療や輸送サービスなどを中心にコアベースでも幾分伸びを高めている。
- FRBが注目するコアベースでのPCE物価指数も、足もとでは伸びを高めつつあるが、政策目標(前年比+2.0%)を下回る状態が続いている。FOMCの景気見通し(6/18公表)によれば、14年第4四半期の伸びは、前年比+1.5~1.6%にとどまる見込みである。賃金の伸びも緩やかであることから、今後のコアベースでのPCE物価指数は緩やかな上昇にとどまるとみられる。
- PCE物価指数の伸びは当面、政策目標を下回る水準で推移するとみられることから、政策金利の引き上げは早くとも15年末以降になるという弊社の見方は変えていない。